

平成26年11月11日

薬事・食品衛生審議会
食品衛生分科会長 岸 玲子 殿

薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会
農薬・動物用医薬品部会長 大野 泰雄

薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会
農薬・動物用医薬品部会報告について

平成26年10月29日付け厚生労働省発食安1029第1号をもって諮問された、食品衛生法（昭和22年法律第233号）第11条第1項の規定に基づくレピメクチンに係る食品規格（食品中の農薬の残留基準）の設定について、当部会で審議を行った結果を別添のとおり取りまとめたので、これを報告する。

レピメクチン

今般の残留基準の検討については、農薬取締法に基づく適用拡大申請に伴う基準値設定依頼がなされたことに伴い、食品安全委員会において食品健康影響評価がなされたことを踏まえ、農薬・動物用医薬品部会において審議を行い、以下の報告を取りまとめるものである。

1. 概要

(1) 品目名：レピメクチン [Lepimectin (ISO)]

(レピメクチン A3 (L. A3) とレピメクチン A4 (L. A4) の混合物。ただし、存在比は L. A3 ≤ 20%、L. A4 ≥ 80% である。)

(2) 用途：殺虫剤

16 員環マクロライド骨格を有する殺虫剤である。昆虫等の神経系において抑制性グルタミン酸作動性の塩素イオンチャンネルに作用することにより殺虫効果を示すと考えられている。

(3) 化学名：

L. A3 :

(10*E*, 14*E*, 16*E*)-(1*R*, 4*S*, 5' *S*, 6*R*, 6' *R*, 8*R*, 12*R*, 13*S*, 20*R*, 21*R*, 24*S*)-
21, 24-dihydroxy-5', 6', 11, 13, 22-pentamethyl-2-oxo-3, 7, 19-trioxatetra-
cyclo[15. 6. 1. 1^{4,8}. 0^{20,24}]pentacosa-10, 14, 16, 22-tetraene-6-spiro-
2'-tetrahydropyran-12-yl (*Z*)-2-methoxyimino-2-phenylacetate (IUPAC)

(6*R*, 13*R*, 25*R*)-5-*O*-demethyl-28-deoxy-6, 28-epoxy-13-
[[(2*Z*)-2-(methoxyimino)-2-phenylacetyl]oxy]-25-methylmilbemycin B (CAS)

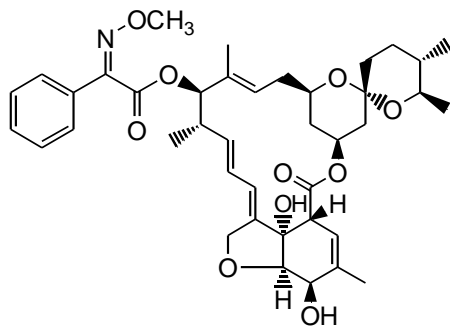
L. A4 :

(10*E*, 14*E*, 16*E*)-(1*R*, 4*S*, 5' *S*, 6*R*, 6' *R*, 8*R*, 12*R*, 13*S*, 20*R*, 21*R*, 24*S*)-6'-ethyl-
21, 24-dihydroxy-5', 11, 13, 22-tetramethyl-2-oxo-3, 7, 19-trioxatetra-
cyclo[15. 6. 1. 1^{4,8}. 0^{20,24}]pentacosa-10, 14, 16, 22-tetraene-6-spiro-
2'-tetrahydropyran-12-yl (*Z*)-2-methoxyimino-2-phenylacetate (IUPAC)

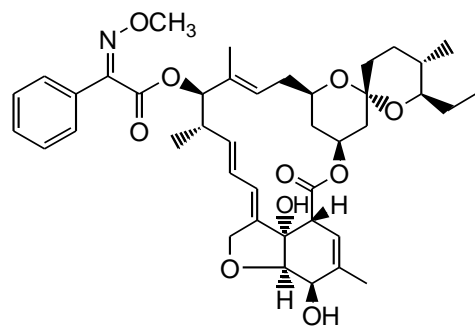
(6*R*, 13*R*, 25*R*)-5-*O*-demethyl-28-deoxy-6, 28-epoxy-25-ethyl-13-
[[(2*Z*)-2-(methoxyimino)-2-phenylacetyl]oxy]milbemycin B (CAS)

(4) 構造式及び物性

L. A3



L. A4



分子式	$C_{40}H_{51}NO_{10}$	$C_{41}H_{53}NO_{10}$
分子量	705.83	719.86
水溶解度	103.47 μ g/L (20 \pm 0.5 $^{\circ}$ C)	46.79 μ g/L (20 \pm 0.5 $^{\circ}$ C)
分配係数	$\log_{10}P_{ow} = 6.5$ (25 $^{\circ}$ C)	$\log_{10}P_{ow} = 7.0$ (25 $^{\circ}$ C)

2. 適用の範囲及び使用方法

本剤の適用の範囲及び使用方法は以下のとおり。

作物名となっているものについては、今回農薬取締法(昭和 23 年法律第 82 号)に基づく適用拡大申請がなされたものを示している。

国内での使用方法

(1) 1.0%レピメクチン乳剤

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	レピメクチンを 含む農薬の 総使用回数
みかん	ミカンホメグサ	1000～ 2000 倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	4 回 以内	散布	4 回以内
	チャキイアザミマ アゲハ類	1000～ 4000 倍					
	ミカンサビダニ	2000～ 4000 倍					
かんきつ (みかんを除く)	ミカンホメグサ	1000～ 2000 倍	100～300 L/10a	収穫 3 日 前まで	3 回 以内	散布	3 回以内
	チャキイアザミマ アゲハ類	1000～ 4000 倍					
	ミカンサビダニ	2000～ 4000 倍					
未成熟 とうもろこし	オオタバコガ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
だいず	ハスモンヨトウ	2000～ 3000 倍					
えだまめ							
かんしょ	ナカジロシタバ	2000 倍					
さといも	ハスモンヨトウ	2000 倍					
いちご	オオタバコガ	1000～ 2000 倍					
トマト ミニトマト	オオタバコガ ハスモンヨトウ ハモグリバエ類 トマトサビダニ	2000 倍					
	コナジラミ類 チャキイアザミマ	1000～ 2000 倍					
ピーマン	コナジラミ類	2000 倍					
	ハスモンヨトウ オオタバコガ チャホコリダニ						

1.0%レピメクチン乳剤（つづき）

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	レピメクチンを 含む農薬の 総使用回数	
なす	ハスモンヨトウ コナジラミ類	1000～ 2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回 以内	散布	3 回以内	
	オオタバコガ ハモグリバエ類 チャノホリダニ	2000 倍						
メロン	ハモグリバエ類							4 回 以内
きゅうり	ハスモンヨトウ コナジラミ類	1000 倍						
	かぶ			コナガ				
ほうれんそう	ハスモンヨトウ	1000～ 2000 倍						
キャベツ	コナガ アオムシ ハスモンヨトウ ハマダラメガ ウワバ類 オオタバコガ							
	はくさい			キジノミムシ コナガ アオムシ ハスモンヨトウ ハマダラメガ オオタバコガ カブラハバチ	1000 倍		収穫 3 日 前まで	3 回 以内
ブロッコリー	コナガ ハスモンヨトウ アオムシ	1000～ 2000 倍						
カリフラワー	コナガ ハスモンヨトウ	2000 倍		収穫前日 まで	3 回 以内		3 回以内	
非結球あぶらな 科葉菜類	コナガ ハスモンヨトウ キジノミムシ							
	レタス	ハモグリバエ類		2000 倍				
レタス	オオタバコガ ハスモンヨトウ	1000～ 2000 倍		収穫 3 日 前まで	3 回 以内		3 回以内	
非結球レタス				収穫前日 まで				
ねぎ	シイタケヨトウ	1000 倍	収穫 3 日 前 まで	3 回 以内	3 回以内			
	ネギアザミウマ ハモグリバエ類							

1.0%レピメクチン乳剤（つづき）

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	レピメクチンを 含む農薬の 総使用回数
だいこん	コナガ アオムシ ハマダラメイト カブラハバチ	1000～ 2000 倍	100～300 L/10a	収穫 3 日前 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
茶	チャノカクモハマキ		200～400 L/10a	摘採 7 日 前まで	2 回 以内		2 回以内

(2) 1.0%レピメクチンフロアブル

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	レピメクチンを 含む農薬の 総使用回数
りんご	ハマキムシ類 ニセシシビダニ	2000～ 4000 倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
なし		2000～ 3000 倍					
もも	ハマキムシ類	2000～ 4000 倍					
おうとう		2000～ 3000 倍					
ぶどう	チャノカクモハマキ	1000～ 2000 倍					

3. 作物残留試験

(1) 分析の概要

① 分析対象の化合物

- ・レピメクチン (L. A3 及び L. A4 の含量)
- ・(E)-メトキシイミノレピメクチン(A3 及び A4 の含量) (以下、代謝物②という)

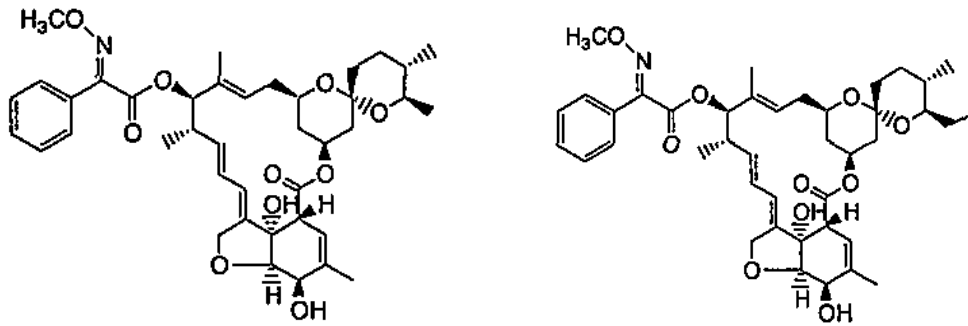
※(E)-メトキシイミノレピメクチン A3 :

(10*E*, 14*E*, 16*E*, 22*Z*)-(1*R*, 4*S*, 5' *S*, 6*R*, 6' *R*, 8*R*, 12*R*, 13*S*, 20*R*, 21*R*, 24*S*)-21, 24-ジヒドロキシ-12-[(2*E*)-2-メトキシイミノ-2-フェニルアセトキシ]-5', 6', 11, 13, 22-ペンタメチル-3, 7, 19-トリオキサテトラシクロ [15. 6. 1. 1^{4,8}. 0^{20,24}]ペンタコサ-10, 14, 16, 22-テトラエン-6-スピロ-2'-テトラヒドロピラン-2-オン

※(E)-メトキシイミノレピメクチン A4 :

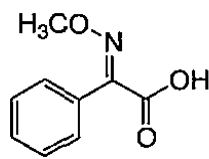
(10*E*, 14*E*, 16*E*, 22*Z*)-(1*R*, 4*S*, 5' *S*, 6*R*, 6' *R*, 8*R*, 12*R*, 13*S*, 20*R*, 21*R*, 24*S*)-6'-エチル-21, 24-ジヒドロキシ-12-[(2*E*)-2-メトキシイミノ-2-フェニルアセトキシ]-5', 11, 13, 22-テトラメチル-3, 7, 19-トリオキサテトラシクロ [15. 6. 1. 1^{4,8}. 0^{20,24}]ペンタコサ-10, 14, 16, 22-テトラエン-6-スピロ-2'-テトラヒドロピラン-2-オン

- ・ (2*E*)-メトキシイミノ-2-フェニル酢酸 (以下、代謝物⑩という)



代謝物②

(左：(E)-メトキシイミノレピメクチン A3 右：(E)-メトキシイミノレピメクチン A4)



代謝物⑩

② 分析法の概要

レピメクチン及び代謝物②

試料からアセトンで抽出し、 C_{18} カラム、グラファイトカーボンカラム又は NH_2 カラム等を用いて精製した後、トリエチルアミン及び無水トリフルオロ酢酸により蛍光誘導体化し、高速液体クロマトグラフ (FL) で定量する。

定量限界：0.001～0.01 ppm

代謝物⑩

試料から含水アセトニトリルで抽出した後、多孔性けいそう土カラム及び C_{18} カラムを用いて精製した後、メチル化し、液体クロマトグラフ・質量分析計 (LC-MS) で定量する。

または、メチル化せずに酸加水分解後、蛍光誘導体化し、高速液体クロマトグラフ (FL) で定量する。

定量限界：0.005 ppm

(2) 作物残留試験結果

国内で実施された作物残留試験の結果の概要については別紙 1 を参照。

4. 魚介類への推定残留量

本剤については水系を通じた魚介類への残留が想定されることから、農林水産省から

魚介類に関する個別の残留基準の設定について要請されている。このため、本剤の水産動植物被害予測濃度^{注1)}及び生物濃縮係数（BCF：Bioconcentration Factor）から、以下のとおり魚介類中の推定残留量を算出した。

(1) 水産動植物被害予測濃度

本剤が非水田においてのみ使用されることから、非水田 PECtier1^{注2)}を算出したところ、非水田 PECtier1 は 0.0011 ppb となった。

(2) 生物濃縮係数

レピメクチン（第一濃度区：0.05 ppb、第二濃度区：0.2 ppb）を用いた 28 日間の取込期間及び 21 日間の排泄期間を設定したコイの魚類濃縮性試験が実施された。レピメクチンの分析の結果から、BCF_{ss}^{注3)} は 2767（第一濃度区）、2556（第二濃度区）と算出された。

(3) 推定残留量

(1) 及び (2) の結果から、レピメクチンの水産動植物被害予測濃度：0.0011ppb、BCF：2767 とし、下記のとおり推定残留量が算出された。

$$\text{推定残留量} = 0.0011 \text{ ppb} \times (2767 \times 5) = 15.2185 \text{ ppb} \doteq 0.015 \text{ ppm}$$

注 1) 農薬取締法第 3 条第 1 項第 6 号に基づく水産動植物の被害防止に係る農薬の登録保留基準設定における規定に準拠

注 2) 既定の地表流出率、ドリフト率で河川中に流入するものとして算出したもの。

注 3) BCF_{ss}：定常状態における被験物質の魚体中濃度と水中濃度の比で求められた BCF。

(参考)：平成 19 年度厚生労働科学研究費補助金食品の安心・安全確保推進研究事業「食品中に残留する農薬等におけるリスク管理手法の精密化に関する研究」分担研究「魚介類への残留基準設定法」報告書

5. ADI の評価

食品安全基本法（平成 15 年法律第 48 号）第 24 条第 1 項第 1 号の規定に基づき、食品安全委員会あて意見を求めたレピメクチンに係る食品健康影響評価について、以下のとおり評価されている。

無毒性量：2.02mg/kg 体重/day（発がん性は認められなかった。）

(動物種) ラット
(投与方法) 混餌投与
(試験の種類) 発がん性試験
(期間) 2 年間

安全係数：100

ADI：0.02 mg/kg 体重/day

6. 諸外国における状況

JMPR における毒性評価はなされておらず、国際基準も設定されていない。

米国、カナダ、欧州連合 (EU)、オーストラリア及びニュージーランドについて調査した結果、いずれの国及び地域においても基準値が設定されていない。

7. 基準値案

(1) 残留の規制対象

レピメクチン (L. A3 及び L. A4 の和) とする。

作物残留試験において、レピメクチンのほか、代謝物②及び代謝物⑩の分析が行われているが、ほとんどの場合、代謝物の分析結果は親化合物に比較して低い残留値であり、また、代謝物の最大残留値が定量限界値未満又はそれに近い値となった場合も多いことから、規制対象化合物としてはレピメクチン本体のみとすることとする。

なお、食品安全委員会による食品健康影響評価においても、農産物及び魚介類中の暴露評価対象物質としてレピメクチン (親化合物のみ) を設定している。

(2) 基準値案

別紙 2 のとおり。

(3) 暴露評価

各食品について基準値案の上限までレピメクチンが残留していると仮定した場合、国民栄養調査結果に基づき試算される、1 日当たり摂取する農薬の量 (理論最大 1 日摂取量 (TMDI)) の ADI に対する比は、以下のとおりである。詳細な暴露評価は別紙 3 参照。

なお、本暴露評価は、各食品分類において、加工・調理による残留農薬の増減が全くないとの仮定の下に行った。

	TMDI/ADI (%) ^{注)}
国民平均	7.6
幼小児 (1~6 歳)	14.0
妊婦	7.4
高齢者 (65 歳以上)	9.3

注) TMDI 試算は、基準値案×各食品の平均摂取量の総和として計算している。

レピメクチン 作物残留試験一覧表

農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 注1) 【レピメクチン本体/代謝物②/代謝物③】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
未成熟とうもろこし (種子)	2	1%乳剤	1000倍散布 190, 200L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A: <0.01/-/- 圃場B: <0.01/-/-
だいず (乾燥子実)	2	1%乳剤	2000倍散布 200, 150L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A: <0.001/-/- 圃場B: <0.001/-/-
さといも (塊茎)	2	1%乳剤	2000倍散布 194, 182L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A: <0.01/-/- 圃場B: <0.01/-/-
かんしょ (塊根)	2	1%乳剤	2000倍散布 200L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A: <0.001/-/- 圃場B: <0.001/-/-
だいこん (根部)	2	1%乳剤	1000倍散布 200L/10a	3回	3, 7, 14日	圃場A: 0.002/<0.001/<0.005 圃場B: <0.001/<0.001/0.007
だいこん (葉部)	2	1%乳剤	1000倍散布 200L/10a	3回	3, 7, 14日	圃場A: 0.051/0.027/0.009 圃場B: 0.030/0.012/0.007
かぶ (根部)	2	1%乳剤	1000倍散布 150, 200L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A: <0.01/-/- 圃場B: <0.01/-/-
かぶ (葉部)	2	1%乳剤	1000倍散布 150, 200L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A: 0.12/-/- 圃場B: 0.18/-/-
はくさい (茎葉)	2	1%乳剤	1000倍散布 200, 241.9L/10a	3回	3, 7, 14日	圃場A: 0.007/0.002/0.005 圃場B: 0.010/0.003/<0.005
キャベツ (葉球)	2	1%乳剤	1000倍散布 200, 150L/10a	3回	3, 7, 14日	圃場A: 0.004/<0.001/<0.005 圃場B: 0.010/0.001/<0.005
こまつな (茎葉)	2	1%乳剤	1000倍散布 200L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A: 0.242/-/- 圃場B: 0.420/-/-
みずな (茎葉)	2	1%乳剤	1000倍散布 200L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A: 0.071/-/- 圃場B: 0.017/-/-
カリフラワー (花蕾)	1	1%乳剤	1000倍散布 300L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A: 0.032/-/-
カリフラワー (花蕾)	1	1%乳剤	1000倍散布 282L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場B: 0.018/-/-
ブロッコリー (花蕾)	2	1%乳剤	1000倍散布 300, 227.3L/10a	3回	3, 7, 14日	圃場A: 0.006/0.002/0.007* (* 3回、7日) 圃場B: 0.012/0.004/0.008
のざわな (茎葉)	2	1%乳剤	1000倍散布 200L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A: 0.022/-/- 圃場B: 0.038/-/-
結球レタス (茎葉)	2	1%乳剤	1000倍散布 200L/10a	3回	3, 7, 14日	圃場A: 0.017/0.005/0.005 圃場B: 0.019/0.007/0.006* (* 3回、7日)
リーフレタス (茎葉)	2	1%乳剤	1000倍散布 200L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A: 0.148/-/- 圃場B: 0.200/-/-
サラダ菜 (茎葉)	2	1%乳剤	1000倍散布 200L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A: 0.476/-/- 圃場B: 0.293/-/-
ねぎ (茎葉)	2	1%乳剤	1000倍散布 200L/10a	3回	3, 7, 14日	圃場A: 0.002/<0.001/<0.005 圃場B: 0.002/<0.001/0.005
トマト (果実)	2	1%乳剤	1000倍散布 250L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A: 0.006/0.001/<0.005 圃場B: 0.006/0.002/0.006
ミニトマト (果実)	2	1%乳剤	1000倍散布 200L/10a	3回	1, 7, 14日	圃場A: 0.089/0.012/0.008 圃場B: 0.069/0.011*/0.008** (* 3回、7日/** 3回、14日)
ピーマン (果実)	2	1%乳剤	1000倍散布 200, 193.3L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A: 0.012/-/- 圃場B: 0.024/-/-
なす (果実)	2	1%乳剤	1000倍散布 200, 210.8L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A: 0.006/<0.001/0.006* (* 3回、3日) 圃場B: 0.028/0.001*/0.01** (* 3回、3日/** 3回、7日)
きゅうり (果実)	2	1%乳剤	1000倍散布 280, 248L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A: 0.02/-/- 圃場B: <0.01/-/-
メロン (果実)	2	1%乳剤	1000倍散布 300, 265.2L/10a	4回	1, 3, 7日	圃場A: <0.001/-/- (#) 圃場B: <0.001/-/- (#)
ほうれんそう (茎葉)	2	1%乳剤	1000倍散布 150L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A: 0.683/-/- 圃場B: 0.224/-/-
えだまめ (さや)	2	1%乳剤	2000倍散布 200L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A: 0.007/-/- 圃場B: 0.014/-/-
温州みかん (果肉)	2	1%乳剤	1000倍散布 500, 550L/10a	4回	1, 3, 7日	圃場A: 0.002/<0.001/<0.005 圃場B: 0.002/<0.001/<0.005
温州みかん (果皮)	2	1%乳剤	1000倍散布 500, 550L/10a	4回	1, 3, 7日	圃場A: 0.067/0.022/0.010* (* 4回、3日) 圃場B: 0.044/0.012/0.008* (* 4回、3日)
なつみかん (果実)	2	1%乳剤	1000倍散布 297, 1200~1600L/10a	4回	3, 7, 14日	圃場A: 0.006/0.002/<0.005 圃場B: 0.005/0.002/<0.005(#)
すだち (果実)	1	1%乳剤	1000倍散布 500L/10a	4回	3, 7, 14日	圃場A: 0.014/0.007/0.008
ゆず (果実)	2	1%乳剤	1000倍 散布 670, 500L/10a	2回	3, 7, 14日	圃場A: 0.004/0.002/<0.005 圃場B: 0.009/0.004/<0.005
		1%乳剤	1000倍 散布 670, 500L/10a	4回	3, 7, 14日	圃場A: 0.004/0.002/<0.005 圃場B: 0.011/0.006/<0.005
かぼす (果実)	1	1%乳剤	1000倍散布 640L/10a	4回	3, 7, 14日	圃場A: 0.005/0.003/0.006* (* 4回、7日)
りんご (果実)	2	1%フロアブル	1000倍散布 500L/10a	3回	1, 3, 7, 14日	圃場A: 0.015/0.003/<0.005(#) 圃場B: 0.029/0.010/<0.005(#)

農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm) ^{注1)} 【レピメクチン本体/代謝物②/代謝物③】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
日本なし (果実)	2	1%フロアブル	1000倍散布 500, 350L/10a	3回	1, 3, 7, 14日	圃場A: 0.029/0.011/<0.005(#) 圃場B: 0.021/0.005*/<0.005 (* 3回、7日) (#)
もも (果肉)	2	1%フロアブル	2000倍散布 400L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A: <0.001/-/- 圃場B: <0.001/-/-
もも (果皮)	2	1%フロアブル	2000倍散布 400L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A: 0.210/-/- 圃場B: 0.637/-/-
おうとう (果実)	2	1%フロアブル	2000倍散布 400L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A: 0.014/-/- (3回、3日) 圃場B: 0.026/-/- (3回、3日)
いちご (果実)	2	1%乳剤	1000倍散布 200, 300L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A: 0.110/0.010/0.008* (* 3回、7日) 圃場B: 0.116/0.021*/0.009* (* 3回、7日)
ぶどう (大粒種 果実)	2	1%フロアブル	1000倍散布 300L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A: 0.019/0.002/<0.005
ぶどう (小粒種 果実)						圃場B: 0.072/0.014/<0.005
茶 (荒茶)	2	1%乳剤	1000倍散布 200L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A: 0.064/0.036/0.018 圃場B: 0.018/0.010/0.014
茶 (浸出液)	2	1%乳剤	1000倍散布 200L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A: <0.001/<0.001/0.016 圃場B: <0.001/<0.001/0.012

注1) 最大残留量：当該農薬の申請の範囲内で最も多量に用い、かつ最終使用から収穫までの期間を最短とした場合の作物残留試験（いわゆる最大使用条件下の作物残留試験）を複数の圃場で実施し、それぞれの試験から得られた残留量。（参考：平成10年8月7日付「残留農薬基準設定における暴露評価の精密化に係る意見具申」）

表中、最大使用条件下の作物残留試験条件に、アンダーラインを付しているが、経時的に測定されたデータがある場合において、収穫までの期間が最短の場合にのみ最大残留量が得られるとは限らないため、最大使用条件以外で最大残留量が得られた場合は、その使用回数及び経過日数について（ ）内に記載した。

注2) (#)印で示した作物残留試験成績は、申請の範囲内で試験が行われていない。なお、適用範囲内ではない試験条件を斜体で示した。

注3) 今回、新たに提出された作物残留試験成績に網を付けて示している。

食品名	基準値案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績等 ppm
				国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	
とうもろこし	0.05		申			<0.01,<0.01
大豆	0.01	0.01	○			<0.001,<0.001
さといも類(やつがしらを含む。)	0.05		申			<0.01,<0.01
かんしょ	0.01	0.01	○			<0.001,<0.001
だいこん類(ラディッシュを含む。)の根	0.01	0.01	○			0.002,<0.001
だいこん類(ラディッシュを含む。)の葉	0.3	0.3	○			0.051(\$),0.030
かぶ類の根	0.05		申			<0.01,<0.01
かぶ類の葉	0.5		申			0.12,0.18
はくさい	0.05	0.05	○			0.007,0.010
キャベツ	0.05	0.05	○			0.004,0.010(\$)
ケール	1	1	○			(こまつな参照)
こまつな	1	1	○			0.420,0.242
きょうな	0.3	0.3	○			0.071(\$),0.017
チンゲンサイ	1	1	○			(こまつな参照)
カリフラワー	0.2	0.2	○			0.032(\$),0.018
ブロッコリー	0.05	0.05	○			0.006,0.012
その他のあぶらな科野菜	1	1	○			(こまつな参照)
レタス(サラダ菜及びちしゃを含む。)	1	1	○			0.476,0.293(サラダ菜)
ねぎ(リーキを含む。)	0.01	0.01	○			0.002,0.002
トマト	0.3	0.3	○			0.089,0.069(ミニトマト)
ピーマン	0.1	0.1	○			0.024,0.012
なす	0.2	0.2	○			0.006(#),0.028(\$)(#)
きゅうり(ガーキンを含む。)	0.1		申			0.02,<0.01
メロン類果実	0.01	0.01	○			<0.001(#),<0.001(#)
ほうれんそう	2	2	○			0.683(\$),0.224
えだまめ	0.1	0.1	○			0.014(\$),0.007
みかん	0.01	0.01	○			0.002,0.002
なつみかんの果実全体	0.03	0.1	○			0.006,0.005(#)
レモン	0.1	0.1	○			(すだち参照)
オレンジ(ネーブルオレンジを含む。)	0.1	0.1	○			(すだち参照)
グレープフルーツ	0.1	0.1	○			(すだち参照)
ライム	0.1	0.1	○			(すだち参照)
その他のかんきつ類果実	0.1	0.1	○			0.014\$(すだち)
りんご	0.2	0.2	○			0.015(#),0.029\$(#)
日本なし	0.2	0.2	○			0.029(#)(\$),0.021(#)
西洋なし	0.2	0.2	○			(日本なし参照)
もも	0.01	0.01	○			<0.001,<0.001
おうとう(チェリーを含む。)	0.2	0.2	○			0.026(\$),0.014
いちご	0.5	0.5	○			0.110,0.116
ぶどう	0.3	0.3	○			0.019,0.072(\$)
茶	0.3	0.3	○			0.064(\$),0.018(荒茶)
その他のスパイス	0.3	0.3	○			0.067,0.044(みかん果皮)
その他のハーブ	1	1	○			(こまつな参照)
魚介類	0.02	0.02				推:0.015

「登録有無」の欄に「申」の記載があるものは、農薬の登録申請等の基準値設定依頼がなされたものであることを示している。

(#)これらの作物残留試験は、申請の範囲内で試験が行われていない。

(\$)これらの作物残留試験は、試験成績のばらつきを考慮し、この印をつけた残留値を基準値策定の根拠とした。

「作物残留試験」欄に「推」の記載のあるものは、推定残留量であることを示している。

レピメクチン推定摂取量 (単位: $\mu\text{g}/\text{人}/\text{day}$)

食品名	基準値案 (ppm)	国民平均 TMDI	幼小児 (1~6歳) TMDI	妊婦 TMDI	高齢者 (65歳以上) TMDI
とうもろこし	0.05	0.2	0.3	0.3	0.2
大豆	0.01	0.4	0.2	0.3	0.5
さといも類 (やつがしらを含む。)	0.05	0.3	0.1	0.1	0.4
かんしょ	0.01	0.1	0.1	0.1	0.1
だいこん類 (ラディッシュを含む。)	0.01	0.3	0.1	0.2	0.5
だいこん類 (ラディッシュを含む。)	0.3	0.5	0.2	0.9	0.8
かぶ類の根	0.05	0.1	0.0	0.0	0.3
かぶ類の葉	0.5	0.2	0.1	0.1	0.3
はくさい	0.05	0.9	0.3	0.8	1.1
キャベツ	0.05	1.2	0.6	1.0	1.2
ケール	1	0.2	0.1	0.1	0.2
こまつな	1	5.0	1.8	6.4	6.4
きょうな	0.3	0.7	0.1	0.4	0.8
チンゲンサイ	1	1.8	0.7	1.8	1.9
カリフラワー	0.2	0.1	0.0	0.0	0.1
ブロッコリー	0.05	0.3	0.2	0.3	0.3
その他のあぶらな科野菜	1	3.4	0.6	0.8	4.8
レタス (サラダ菜及びちしやを含む。)	1	9.6	4.4	11.4	9.2
ねぎ (リーキを含む。)	0.01	0.1	0.0	0.1	0.1
トマト	0.3	9.6	5.7	9.6	11.0
ピーマン	0.1	0.5	0.2	0.8	0.5
なす	0.2	2.4	0.4	2.0	3.4
きゅうり (ガーキンを含む。)	0.1	2.1	1.0	1.4	2.6
メロン類果実	0.01	0.0	0.0	0.0	0.0
ほうれんそう	2	25.6	11.8	28.4	34.8
えだまめ	0.1	0.2	0.1	0.1	0.3
みかん	0.01	0.2	0.2	0.0	0.3
なつみかんの果実全体	0.03	0.0	0.0	0.1	0.1
レモン	0.1	0.1	0.0	0.0	0.1
オレンジ (ネーブルオレンジを含む。)	0.1	0.7	1.5	1.3	0.4
グレープフルーツ	0.1	0.4	0.2	0.9	0.4
ライム	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
その他のかんきつ類果実	0.1	0.6	0.3	0.3	1.0
りんご	0.2	4.8	6.2	3.8	6.5
日本なし	0.2	1.3	0.7	1.8	1.6
西洋なし	0.2	0.1	0.0	0.0	0.1
もも	0.01	0.0	0.0	0.1	0.0
おうとう (チェリーを含む。)	0.2	0.1	0.1	0.0	0.1
いちご	0.5	2.7	3.9	2.6	3.0
ぶどう	0.3	2.6	2.5	6.1	2.7
茶	0.3	2.0	0.3	1.1	2.8
その他のスパイス	0.3	0.0	0.0	0.0	0.1
その他のハーブ	1	0.9	0.3	0.1	1.4
魚介類	0.02	1.9	0.8	1.1	2.3
計		84.1	46.0	86.6	104.2
ADI比 (%)		7.6	14.0	7.4	9.3

TMDI: 理論最大1日摂取量 (Theoretical Maximum Daily Intake)

(参考)

これまでの経緯

平成19年	2月23日	農林水産省から厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準設定依頼（新規：かんきつ、いちご、なす等）
平成19年	3月5日	厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
平成21年	3月26日	食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知
平成22年	5月19日	残留農薬基準告示、初回農薬登録
平成23年	1月25日	農林水産省から厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準設定依頼（適用拡大：だいず、かんしょ等）並びに基準値設定依頼（魚介類）
平成23年	3月22日	厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
平成24年	2月16日	食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知
平成25年	3月12日	残留農薬基準告示
平成25年10月17日		農林水産省から厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準設定依頼（適用拡大：未成熟とうもろこし、さといも等）
平成26年	1月30日	厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
平成26年	4月22日	食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知
平成26年10月29日		薬事・食品衛生審議会への諮問
平成26年10月30日		薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会

● 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会

[委員]

石井	里枝	埼玉県衛生研究所水・食品担当部長
延東	真	東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科教授
○大野	泰雄	公益財団法人木原記念横浜生命科学振興財団理事長
尾崎	博	東京大学大学院農学生命科学研究科獣医薬理学教室教授
斉藤	貢一	星薬科大学薬品分析化学教室教授
佐藤	清	一般財団法人残留農薬研究所技術顧問
高橋	美幸	農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究所上席研究員
永山	敏廣	明治薬科大学薬学部薬学教育研究センター薬学教育部門教授
根本	了	国立医薬品食品衛生研究所食品部第一室長
宮井	俊一	一般社団法人日本植物防疫協会技術顧問
山内	明子	日本生活協同組合連合会執行役員組織推進本部長
由田	克士	大阪市立大学大学院生活科学研究科公衆栄養学教授
吉成	浩一	静岡県立大学薬学部衛生分子毒性学分野教授
鰐淵	英機	大阪市立大学大学院医学研究科分子病理学教授

(○：部会長)